

初めての製本

概略

- ・備忘録としてメモったものが、膨大なボリュームになったので、仕分けして製本してみることにした。
- ・ハードルが高いことは承知の上で、**あじろ綴じ**もどきに挑戦してみる。
- ・最初に、製本の構造図を描いてみて、**製本治具**作りから始める。

製本治具

- ・市販されている製本治具を参考に、突き出し調整ダボを、高さ調整可能な構造にしておく。

完成:2021年10

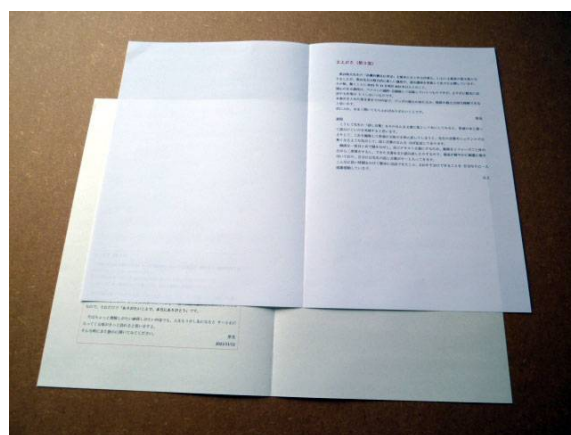
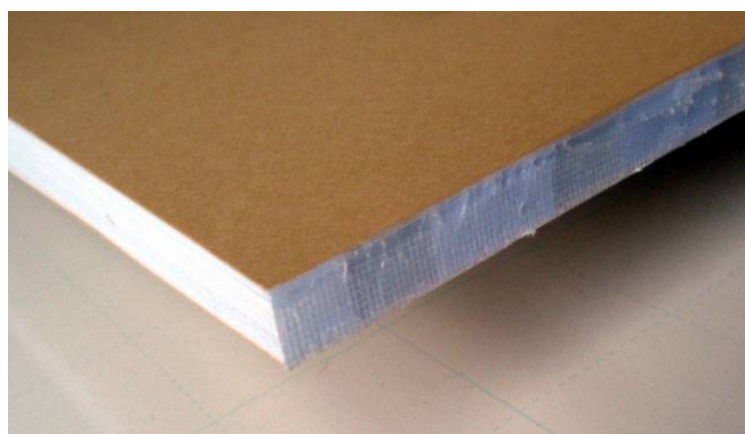


↑ 出来上がった**初製本** (第1巻から3巻)
背にタイトルを入れたいのだが、製本テープには印刷できそうにないので、やはりシールしか手がないかな？ 一つ案があるので試してみようかな。



↑ A4原稿 約60枚に両面印刷し、**特製治具**にセットの上、**あじろ溝**をカットした状態。

- ・なお、小口を毛羽立たせるために、糸ノコ歯を横に滑らせながら小口の接着面を荒らしている。
- ・あじろ溝のおかげで、接着面積を充分稼いでいる。
- ・治具の天部の4本のピンは、原稿の出っ張り代を可変できるようにネジ式にしてある。(0~8mmまで)



↑ 表紙の裏側には、A3の**遊び紙**を入れて 表紙と一体化するので、市販本のように表紙と裏表紙は180°に開くことができます。(写真は一体化前の遊び紙)

A4プリンターでA3用紙に印刷するのに苦労したが、用紙が反転型のプリンターでは、トラブルの可能性があるが、後ろから入れて前に出てくるようなプリンターだと、案外簡単に好きな面に印刷できます。

← 左上のセット状態から、あじろ溝小口を 治具の上面一まで下げた状態で、接着小口にホットメルトをグルーピングガンで流し、上から補強のために**寒冷紗**を押えてある。

あじろ溝にもたっぷりホットメルトが埋まっているのが薄く透けて見える。

このあと、背に**製本テープ**を貼り付ければ**完成**。

裏話

- ・印刷屋の機械製本にも 色々な方法があるようだが、この「**あじろ綴じ**」が少し面倒だが一番気に入りました。
- ・この方法だと、市販の製本と同じように しっかり綴じることができるし、表紙を分厚いものにも出来そうです。
- ・厚さ**0.6mm**のシナ単板を持っているので、それを2枚合板にして 木の表紙にすることも考えたが、**0.6t**単板へのインクジェット印刷が微妙だったので諦めた。
木の板への印刷は、レーザープリンターで印刷したものを転写する方法もあるようなので、その技術もその内試してみたい。